

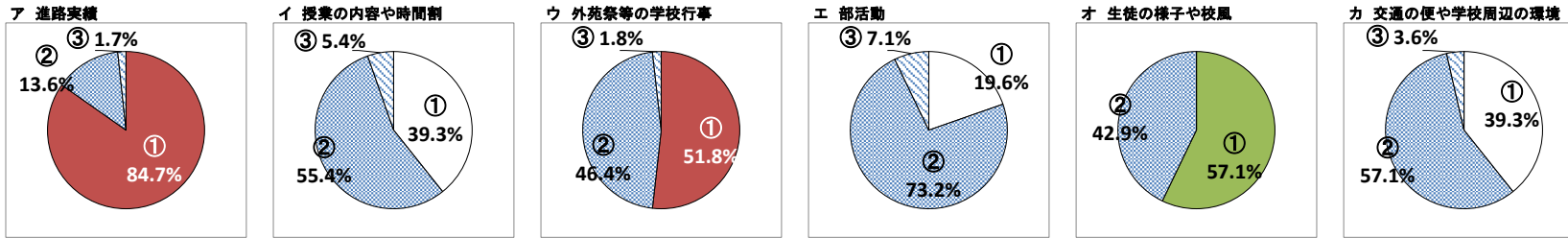
# 令和元年度教職員による学校評価

## I 青山高校を志望する際に生徒・保護者が考慮した事柄

質問1 次のそれぞれについて、生徒・保護者が青山高校を志望する際にどの程度考慮したと思いますか

①大いに考慮した ②ある程度考慮した ③あまり考慮しなかった ④全く考慮しなかった

生徒・保護者との意識のずれは年々狭まっている



○その他の事柄  
 校長や学校説明会等で話をした教職員の人柄や熱意(3)  
 どのような進路にいつてるかが一番大事。外苑祭や部活はその次の関心事(1)  
 学校説明会やサマースクールの雰囲気なども考慮したのではない(1)  
 生徒保護者が考慮したであろうこと＝兄弟が青山高校で充実した学校生活だったこと(1)  
 在校生からの「口コミ」みたいなのも考慮していると思う(1)  
 在校生(先輩)の雰囲気や説明会等での教員の対応は気になるのではない(1)

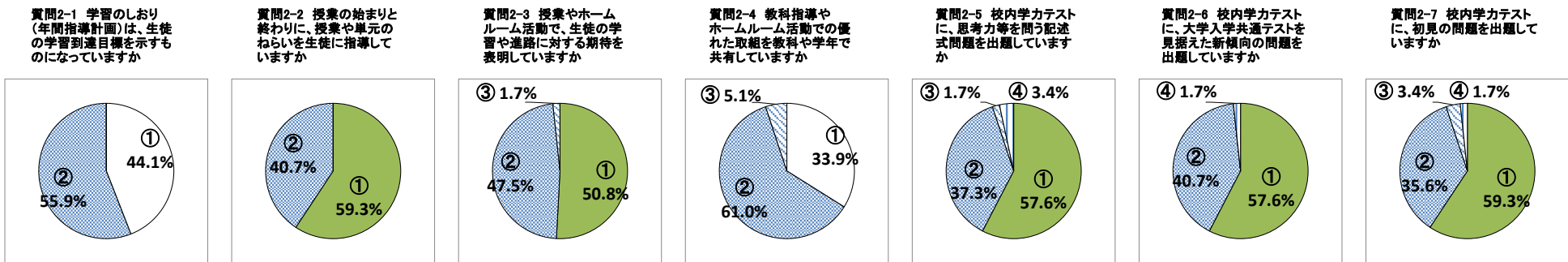
○エビデンスと異なる意見  
 生徒と保護者として考慮することが違うと思われるので、この質問1は不適切ではないか(1)  
 進路実績と外苑祭の両方が青山高校に決める大きな理由であると生徒も保護者も言っている(1)

「進路実績」を考慮する割合は、1年生が最も高く、年を追うごとに増えており、保護者も重視しているが、教職員の評価の半分程度にとどまっている。「外苑祭等」は、依然として過大評価の傾向が強い。「生徒の様子や校風」については、生徒・保護者とほぼ一致する。生徒・保護者が考慮しているの

## II 授業・講習やホームルーム活動について

○次の各項目について、どの程度当てはまりますか

①当てはまる ②ある程度当てはまる ③あまり当てはまらない ④全く当てはまらない



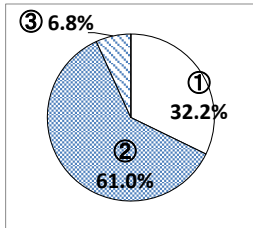
大学入学共通テストと新高等学校学習指導要領を見据えて、自校作成問題に新傾向の設問を導入して3年がたち、定期考査や校内学力テストへも反映されるなど、「作問力こそ指導力」の方針の下、確実に成果をあげている。「生徒への期待の表明」はまだ十分とは言えないが、「ホームルーム活動に関する調査」では、特に3年生の担当が大きな成果をあげている。一方、「学習のしおり(年間指導計画)」の精度向上や活用促進「優れた取組の共有」については、一層の推進が必要な状況である。特に、「優れた取組の共有」が十分でないことは、学校全体の教育力の向上を目指すうえで大きな課題である。「一人の百歩より、百人の一步」の方針の下、遠慮せずに教えあえる雰囲気や醸成する必要がある。

# 令和元年度教職員による学校評価

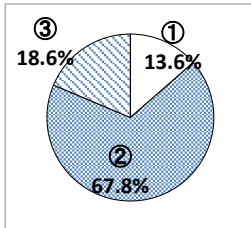
○生徒は、次のそれぞれについて、どの程度役立つと感じていると思いますか

①大いに役立つ	③あまり役立つしない
②ある程度役立つ	④全く役立つしない

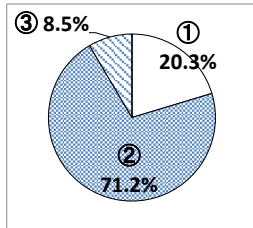
質問3-1 土曜授業



質問4-1 講習デー



質問5-1 生徒による授業評価



○土曜授業について

土曜授業をやるよりも、生徒が自宅等において課題などをやる時間にあてた方がよい。または、自由講習デー(受講の有無出席は自由)(1)  
3年生の体育は土曜日に設定しない方がよい(1)

英語の教育課程の中にある授業なので、生徒の役には立っていると思う。が、平日と異なって70分であったり、毎週ではなかったりと授業が変則的である点、生徒が自由な活動をする時間を奪う点、職員の勤務体系が変則になる点はデメリットであり、メリットとはかりにかけて考えると、土曜授業には反対である(1)

適切な生活リズムや休憩を確保したり、保護者との対話の時間を奪わないためにも、土曜は、休日にした方が効果的だと思う。保護者も共働きが多く、平日はゆっくりできない状況で、思春期の子供と向き合うより、時間の余裕がある時に会話をした方が、好影響を与えられると思う。家庭の教育力を大切に考えるべきだと思う(1)

土曜日のみ70分授業であり、時間をかけられる一方で進度の早さで負担に感じる生徒もいると感じる(1)  
質問2-6、7は、まだ実施していないので、必須回答では困る。土曜授業は、新カリの中で、50分授業で行う工夫をすべきだと思う(1)

## 土曜授業・講習デーの効果は認めつつも、反対意見も15%前後ある

○講習デーについて

廃止すべき、生徒を休養させるべき、親も子ども忙(5)  
必要な教科が自主的に講習をやればよい。元々強引に設定されたもので、当初から生徒・教員共に学校に対する不信感や反発心を増す一方の日。担任がづらい。人間と社会の活動や部活動等、授業のない土曜もほぼ全員活動しており、なぜあえて設定するのか理解不能(1)  
講習デーと銘打ちながら講習はしていないのが現状。継続的にできないのが原因。ネーミングから変えた方が、模試の日にするなど(1)  
3年は今のままでもよいが、1・2年の講習デーは、進路学習や探求学習にするとか、教科の自由講習にするとか、ある程度方向性を決めた方がよいと思う。今のままでは中途半端(1)  
質問3-2の通り。ただし、「人間と社会」探求(総合)のことを考えると、現状のままでいくしかないかもしれない(1)  
各学年の裁量に任されているところを、学校として、どのようにすべきなどの目的を明確化するべき。目的がはっきりすれば、意味のあるものになると考える(1)  
位置付けなどが不明確であり、事故があった場合など問題を生じる可能性が大きい。土曜授業と合わせて整理するべき(1)  
講習デーを経験していないので、よく分からない(1)

○生徒による授業評価について

集計は手間だが、具体的にどの部分を評価している(あるいはしていない)のかを記述式で書いてもらえるような形式にすれば、より直接的に授業改善につながる(1)  
呼ばれないよう、当たり障りのないことしか書かない、と話すのを聞いたことがある(1)  
生徒にも評価の結果を示しているのか? 評価することがどう役に立つのか、わかりやすく生徒にも説明すべき(1)  
与えられるのが当たり前、与えられるのを待つという姿勢を助長してしまうのではないかと危惧する。自ら学び取っていく自学自習の力を身に付けなければならぬという意識をもたせるようなものにする方がよいのではない(1)  
授業評価アンケートを実施することで、生徒自身がもっと予習復習の必要性や主体的に取り組むことを意識する機会になるとよい(1)  
自分の受験科目以外の授業を軽視する生徒が増えており、そのような生徒の評価は役に立たない(1)  
その結果を生徒が何に役立っているのかと考えたときに、答が出てこない。生徒へのフィードバックは、集計した数字ではなく、改善された授業であるべきである(1)

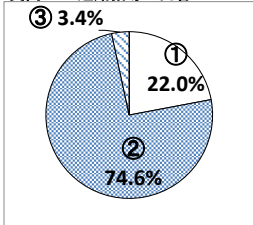
授業評価・学校評価の結果について、教職員が目を通していない可能性がある。評価結果を分析すると、生徒の甘えを助長する危惧は確かにあるが、授業改善を真剣かつ切実に訴えている生徒がいることも事実である。それぞれの授業等において

## Ⅲ 進路指導について

○生徒は、次の内容について、どの程度満足していると思いますか

①大いに満足	③あまり満足していない
②ある程度満足	④全く満足していない

質問6-1 進路指導の内容

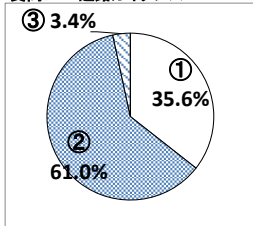


年毎の傾向もあるかもしれないが、3年生になり塾の指導に多くの生徒が流れていった。初年度から計画のかつ組織的な指導を行い、学校の進路指導を信頼するような土壌を形成すべきだった(1)  
兄や姉がいない場合、学校からの進路指導・情報提供はとても大切だと思う(1)

○生徒は、次のそれぞれについて、どの程度役立つと感じていると思いますか

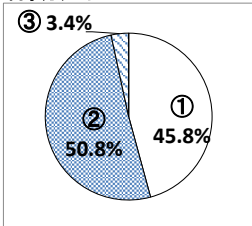
①大いに役立つ	③あまり役立つしない
②ある程度役立つ	④全く役立つしない

質問7-1 進路ガイダンス



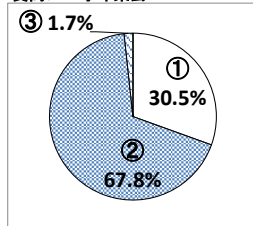
膨大が情報を一気に与えず。焦点がぼやけ、何が重要か生徒は理解できない。その時点で重要なことだけを話す(1)  
話が長すぎて生徒が飽きていることがある。ただ聞くだけでなく生徒自身が考えたり、記入して理解させながら実施する(1)  
学校からの進路指導・情報提供はとても大切だと思う(1)

質問8-1 外部模擬試験・校内学力テスト



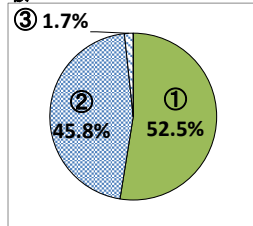
校内学力テストは校内だけの評価なので、あまり役立つとは思っていないようだ(1)  
定期考査は成績に反映するが、それ以外の模試等は成績には関係ないから、できなくてもよいという雰囲気がある気がする。3年生になれば変わるかも(1)  
役立つように指導することが大切。定期考査や模試について事後の活用について、授業の中で話したことがある(1)

質問9-1 学年集会



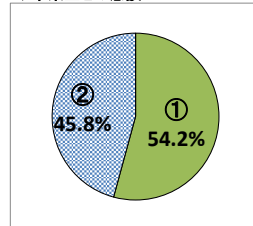
やり方が悪ければ、効果はない。話が上手な人の話し方や内容を研修すべき(1)

質問10-1 二者面談・三者面談



三者面談は、生徒自身による進路決定を阻害していないか、注意が必要。生徒自身に決めさせるよう教員が導く手順を踏まなければならない役に立つよう実施することが必要。形だけならやらない方がよい(1)

質問11-1 卒業生による講演や卒業生との懇談



いつも難関4大学ばかりだと関心が薄れてしまう。学年や時期によって人材選びは大切(1)  
人選にかかっている。参加していないので、なんとも言えない(1)

## 組織的な進路指導への評価に課題が垣間見える

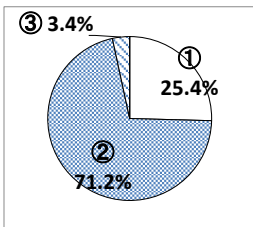
# 令和元年度教職員による学校評価

## Ⅳ 心身の健康指導やケア等について

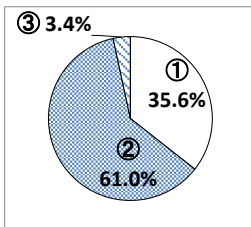
○生徒は、次のそれぞれについて、どの程度役立つと感じていると思いますか

①大いに役立つ	③あまり役立つしない
②ある程度役立つ	④全く役立つしない

質問12-1 保健室の健康指導やケア



質問13-1 スクールカウンセラーとの面談や相談



○保健室に関するもの  
保健室が閉まっていることが多い。情報を発信をすること。閉まっている時間を減らすことが必要(1)

部活動などで怪我をしやすい時間帯に保健室が閉まっていることが多いので、改善の余地はあると感じる(1)

○OSCIに関するもの  
メンタル的に問題を抱える生徒は増加しているため、スクールカウンセラーが常駐して、もっと気軽に相談できるような環境があれば望ましい(1)  
スクールカウンセラーとの面談を嫌がる生徒もいる(1)

【質問16 ライフ・ワーク・バランスの実現のために、必要なことはどのようなことだとお考えですか】

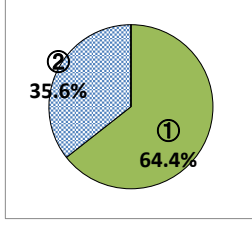
- ・IT・省力化の推進
  - 教材の共有や電子化、Wi-Fiの導入、生徒一人一台のタブレット等の導入(1)
  - 出席簿の電子化、会議資料のペーパーレス化(モバイルTAIMSの有効活用)(1)
- ・人的配置
  - 教員の定数増・見直し、クラスの生徒数を減らす(6)
  - 休日の部活引率を頼める部活指導員を配置(3)
- ・職務の特殊性
  - 学校は組織においても個人においても一元化できない複数の種類、分野の仕事が同時展開で行われていて、簡単に効率化は図れない。作問や生徒の指導は、あえて面倒くさいことをやることで効果が出ることもある。早く帰宅したいが帰れないのが現状。早く帰らされても家に持ち帰ってやるだけ。ライフ・ワーク・バランスの実現は難しいと思う(1)
  - ・リフレッシュの重要性
    - 仕事はなるべく勤務時間内に終わらせる。週一回の同僚との懇親会。帰宅後の読書と睡眠時間の確保。休日の、図書館利用と家族での近隣温泉入浴(1)
    - 仕事とプライベートの時間の切り替えがどれくらいしっかりできるかにかかっている(1)
- ・業務縮減と効率化
  - 無駄な業務を減らす、仕事内容の見直し(3)
  - 業務の見直しをはかり、削減できるものは減らす(修学旅行や遠足など、学校でやらなくてもよいのでは)。担当授業数の削減。部活を担当する教員の授業数や出勤時間を配慮など(1)
  - 効率よく、仕事を進めることと課題に対しての共通理解(1)
  - 分掌業務の見直し。形骸化しているものや、負担の大きいものは積極的に見直し効率化すべきだと思う(1)
  - 時に降残業禁止のようなルールを作る。必要ないまたは縮小したい仕事をあぶり出し改善する(1)
  - 勤務時間内には終わらない、仕事量を減らす(1)
  - 業務上の負担が一部の教員に偏らないような体制も必要(1)
  - 教員間での仕事量のバランスがおかしい。頼みやすいだけでなく、学校全体として様々な面に取り組みしていくべき。各種委員会などのメンバーや部活動の顧問など、教科、分掌以外での仕事について、担当者だけでなく、学校全体として明確化が必要(1)
- ・自己管理の徹底
  - 時間の管理を一人一人がすること(1)
  - 勤務時間にテキパキと仕事をこなして定時に帰ること。ダラダラ学校にいない(1)
- ・職場環境
  - 心身の疲労を感じた際に、休暇等を使って適切な休息を取れる職場環境を作ることが必要(1)
  - 相談しやすい職場の雰囲気、休暇取得状況の把握による休暇取得促進、業務時間と業務時間外の適切な区別等(1)
- ・その他
  - 失敗を恐れず、失敗体験と成功体験を繰り返しながら、問題解決能力を育てていく。・自分は変わる(成長できる)と信じること。・良き仲間と出会い、良き仲間を求めること(1)
  - 図書館業務の委託はライフワーク・バランスにまったく逆行している(1)
  - 土曜授業を廃止してほしい(1)
  - 自発的な仕事はいくらでもする。その方が心身ともに安定する。無駄なことをさせないでほしい。質問17まで、長文を入力したが、入力後に回答内容確認のボタンを押したと同時にserver errorと出て、すべてが消えた。時間を無駄にされた。もう終了する。再入力もしない(1)
  - タブレット利用で学校内での勤務時間を表面上減らし、自宅で無制限に仕事をさせるという発想の組織が、ライフワーク・バランスをうたうのは、ブракジョーク以外の何ものでもない(1)
  - 教育への投資を渋り教員に対して変則的な労働時間を導入しようとしていることに、教育現場の暗澹たる未来が見えるようだ(1)
  - 安全衛生委員会はうまく機能していない。毎回出席する人の負担になっているだけ(1)

## Ⅴ 学校行事・部活動について

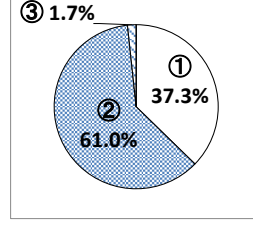
○生徒は、次のそれぞれについて、どの程度満足していると思いますか

①大いに満足	③あまり満足していない
②ある程度満足	④全く満足していない

質問14-1 外苑祭や体育祭などの学校行事



質問15-1 部活動



○学校行事について  
外苑祭は青山高校そのものを表すような行事であると思うので十分な準備期間とクオリティをあげていく方向性を大切にしていきたいと思う(1)

○部活動について  
保護者から休みがないという不満をよく聞く(1)

早期の電話対応の自動化、印刷から帳合いまでできる印刷機の導入などで時間をつくる(1)

タブレットの利用時間はどこであっても勤務時間であり、部活動その他を含み7時間45分で完了できる仕事量になるように、人的配置を増やすしかない。教育への投資は惜しんではならない(1)

早く帰れといわれても、業務が増え続けている現状ではライフ・ワーク・バランスは実現できない(1)

家庭での時間の必要性を自覚することではないか(1)  
ファミリーフレンドリーを更に充実させる(1)

公務の負担軽減及び教員同士の協力(1)  
教科指導・ノート提出など手間と効果を考えて方がいいのではない(1)  
まずは教員のチームワークが必要。その人しかできない仕事は任せるにしても、誰でもできるものは他の人で分担し、特定の人に仕事集中しないように配慮(1)  
提出書類の簡素化(1)  
仕事の絶対量が変わらなければいくらバランスを取ろうとしてもどこかで壱が起るはず。今の青山高校は比較的ライフ・ワーク・バランスが取れている職場だと思うが、常に日々の業務を「本当に必要な仕事なのか」「よりやるべき仕事があるのではない」と振り返る必要がある(1)  
働きやすい職場環境の改善を図る。教職員間で情報を共有化し、分掌業務に対しても協力体制づくりを行う。  
ライフワーク・バランスが実現が難しい教員の多くは、部活動が関係していると思う(本人が希望するのであればよいが)(1)

「自己管理」が一番必要な事柄である。体調管理はもちろんのこと、仕事の優先順位を決めて計画的に行うことが、大切である(1)  
職務に専念すること(1)

学校で授業などが効果的にできるような学問的な内容の深化をはかること、それと有機的に関連する自己の学問的な研究を仕事以外の時間帯・空間において進めるところが重要(1)

個人の仕事を減らさない限り、余裕を持って生徒対応ができる時間の検出は難しく、ライフ・ワーク・バランスの実現はなおさら難しいのではない。現状では、教科間で仕事量に圧倒的な差がある職場だと感じている。その差を少しでも是正しようとするようなことがあれば、もっと納得感を得られると思う。例えば、定期考査の監督は作問・採点のない人でやってもらう、など。なぜ全員監督回数平等にするのか、今でもよく分からない(1)  
ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、まずは休日及び勤務時間外の部活動について、検討する必要がある。部活動の顧問については、一人の担当顧問への負担や偏りがないように、職場内でチェックし、必要に応じて外部指導員の配置や日曜日の完全休業日の設定、引率業務の均一化等の対策が必要になると考える(1)  
ライフステージの違い、家庭環境を含め本人のバックグラウンドも多様である。そうした諸事情を職場内において公言し協力を得やすい体制づくりができる人、(公言したくなくても)公言せざるを得なくなってしまう人、公言せずにいる人もいるであろう。ライフ・ワーク・バランスの実現のためには、今後も管理職における十分な配慮と教員同士においても多かれ少なかれそれぞれに事情を抱えているものであり、思いやりと協力しあうという姿勢を大切にしていける必要があると考えている(1)



# 令和元年度教職員による学校評価

【質問17 学校をよりよくしていくために、今後どのようなことが必要だとお考えですか】

※複数の意見を記述したものは、分類する際に分割しているため、回答数が回答者数よりも若干多くなっている。

- ・授業・指導力
  - 相互授業観察の継続(2)
  - より良い授業や指導のために教員のスキルアップや円滑な人間関係の構築の努力を怠らないこと。今までの経験に胡坐をかかずに、客観的に見る目を養い、常に取り巻く状況を把握し最善を尽くす。向上心、向学心を持ってほしい(1)
  - 作問力を高めることが不可欠である。また、教材の使いまわしや旧態依然とした指導からの転換を図り、教科内での統一的指導ができるようになることが必要(1)
  - やはり基本は授業だと思う。教員がしっかりと教材研究できる時間を十分に確保すること。質の高い授業を提供すれば、社会に評価されよりよい学校になっていくのでは(1)
  - 分かる授業の実践(1)
- ・情報の共有・教員間のコミュニケーション
  - 情報の共有化、全体の様々な意見集約し、調整すること。管理職が様々な決定を行うための十分な情報集約、生徒情報の共有、教員間の密な情報の交換(5)
  - すでに実践されていることではあるが、相互授業観察や教科会、学年会を通して、効果を上げている取組みを共有し、教員が共通の認識を持って指導に取り組んでいくことが今後も一層必要だと考える(1)
  - 各教科準備室ごとに居場所が分かれてしまっているため、教職員間のコミュニケーションが偏ってしまっている。物理的に隔てられているため、仕事も、一つのことを協力してやるのではなく、自分に割り当てられた仕事を一人でやるという意識が強いように感じる。お互いにもっと協力し合って、コミュニケーションをとりながら業務を遂行する、という意識が共有できれば、働きやすい職場になるのではないかと(1)
- ・業務内容や分担の見直し・効率化
  - 合理的な役割分担と業務量を減らすこと。PC端末は教育現場には全く使えない代物で、これを持ち帰って仕事をしても、学校にいる時間が減るだけで、手間はこれまで以上に増えるため、我々の仕事量は増える(1)
  - 教員が、ゆとりを持って生徒と接したり、充分授業準備をしつりする時間を確保することが大切(1)
- ・人事・公平な分担
  - 教員の数を増やし、少人数制の授業を増やせば、基礎学力の向上、生徒・進路指導、様々な教育活動は円滑になり、学校は良くなっていく(1)
  - 副校長を2人配置する。進学指導重点校は30代後半から40代の教員の層を厚くする(1)
  - 人的配置も含む施設と環境整備の整備が必要(1)
- ・教職員の連携協力
  - 教員の所属意識改革も必要で、特に外部向けの行事には「自分は担当ではない。関係ない。」という風潮が強く感じられる。担当分掌は計画や進行を取り仕切る所で、動くのは全教職員で行うべき(1)
  - 教員が互いを認め、協力しあえる関係性。基本的に他者の仕事等は表面的にしか見えないものであり、個人の感覚や感情にもとづき他者を判断・対応をすることがないよう、今後も気を付けていく必要があると考えている(1)
- ・生徒指導
  - 生徒にはまず、時間を守ることの大切さを伝えたい(1)
  - 自由な風風を大切にしながら、学校生活に必要な規範について、教員間で共通理解をもっておくことが必要かと思う(1)
  - 自主・自由と放任・好き勝手は違うことを全教職員が共通理解して生徒指導をすることが必要だと思う(1)
  - 生活指導も自由だけを強調するのではなく、指摘するべき点はきちんと指摘してあげることが大事(1)
- ・進路指導
  - 「進路指導の更なる徹底」が必要であると考え、「進路実現」が、生徒はもちろんのこと、保護者が一番学校に求めていることだと考える(1)
  - 受験勉強にかたよらず、日本の未来や国や世界のことを真剣に考えたり、人生を豊かなものにするための哲学的思考ができるような人間を育成しうる環境づくりも大切だと思う(1)
- ・施設設備
  - 視聴覚機器・設備の管理主体が不明確で管理・修理・更新等が適切に行われていない。体育館の放送設備・機器が特に古い。5階ホールで使用するワイヤレスマイクの音声は体育館に混信して大きな音声で流れたことに驚かされた。周波数チャンネルを可変できない機器・設備を使用し続けているのは時代遅れであろう。5階ホールの設備は更新できているので、段階的に整備を進めるべきである(1)
  - 本庁等への積極的な働きかけによる施設設備面からの教育環境の改善(1)
- ・人材育成・教育の継承
  - 分掌、教科内の世代間の適切な引き継ぎ。若い世代、それ相応の世代の人材を育てて引き継いでいかないと学校の未来が危ぶまれる(1)
- ・情報発信
  - 引き続き、学校の取り組みの情報提供(HP等の有効活用)(1)
- ・校内美化
  - 校内美化活動の徹底(1)
- ・その他
  - 学校は生産性ではなく、人間性を高める場所だと生徒に示さなければならない。不安定な世界情勢、多発する自然災害、社会で求められる能力が随時に入れ替わる時代にあつて、場当たり的な成果や技術を身に付けさせても何にもならない。一見無駄で、数値になりにくいものこそ、いざと言うときに自己の支えとなる。学校が本質的な価値を貴ぶ空間であつて初めて、生徒の中にも育ちうる。文学の軽視、図書館の軽視は人間の軽視である。委託化は断固回避しなければならない(1)
  - 司書の業務委託を廃止することを求める(1)
  - 職員間でプライベートに干渉しないこと(1)

進学指導重点校なら、授業が一番であるべき。アクティブラーニングの名を借りたい加減な授業が横行している。教材研究をきちんとすべき。教員の技量を上げないと、青山高校の将来はない(1)

どんな環境でも自分から学び取っていく自己学習能力の育成。与えられるのを待つだけ、与えてくれないのは悪いことという意識を払拭する。学習は本来自分でやるべきものだという認識を生徒に強くもたせること(1)

あまり教員が生徒の前に立ち物事を進めていけない。できるだけ、生徒たちに考えさせ行動させ、教員は横または後ろから見守るような環境を作りたい。授業ももっと生徒自ら考え生徒同士で学び合える授業を展開したい(1)

引き続き、授業での取り組みの共有・従来の形態に囚われない、主体的な活動や思考を促す授業改善(1)

率直に言って、伝統という名のもとにアグラをかいている感じ。勉強のできない生徒へのフォローも進学対策と同じように大事。教科別になっているため、他教科との意思疎通が今ひとつ不便。もう少し緊張感が出てくれば学力も全体的に底上げされると思う(1)

全体のコミュニケーション(議論)の場を作る。ピラミッド型は、良くないのでなくす。日本全体が変わらないと、これからは(も)世界で通用しない(1)

挨拶をすること。余裕があるとより良いと思います。教員間のコミュニケーションが不足していると感じています。仕事以外でも話せるような環境を作るべきかと(1)

ライフ・ワーク・バランスを更に向上させる(1)

教員一人一人が各自のライフ・ワーク・バランスを実現させること(1)

長時間労働抑制による職場環境の改善等(1)

旧態依然の部分を変えていかないと危ない気がする。能力あるスタッフの充実を頑張っていたきたい(1)

透明性のある学校経営。学校全体のことを考えてがんばっている人がモチベーションを高められるような体制作り(人事や予算など)(1)

仕事の分担がもっと公平になることを望む(1)

担当者だけでなく進むことが多い気がする。学校全体で、生徒と向き合っていく姿が必要(1)

世の中の変化に柔軟に対処できる学校であり続ける必要があると思う。大きな改革も必要な時期に来ている気もする(1)

全教員で生徒を支援していく(1)

生徒の実態に合わせた生徒指導が必要だと考える。学習に取り組む一方で、場所を考えずに騒いだり、元気をもてあまして奇声を張り上げる生徒など、エネルギー的な生徒をよく見かけるようになった。そういった現状を踏まえ、力をうまう良い方向に出すことができるような機会の提供や、前向きな声かけが必要だと考える(1)

生徒は、能力も高く目標に向かって真面目に取り組むことができ、保護者も教師も十分にサポート・指導をしていると感じている。生徒自身が将来、自分が何をしたいのか、どうしたいのかを考え、それを実現させようという意志を育むことが今後も必要だと考えている(1)

学年集会の充実を図る(1)

グラウンドの人工芝化を推進していただきたい。また学校説明会において、保護者から体育館が暑すぎて説明内容が頭に入ってこなかったという意見があった。体育館の改修や冷暖房設備の改善も含めて、設備の整備を検討していただきたい(1)

教室入ロドアのゴムバッキンがないクラスが多いので修理してもらいたい(1)

2・3年生教室の暑さ対策も早急に行ってもらいたい(1)

図書館司書が外部委託になることに反対である。進学重点校を謳いながら読書をおろそかにする学校の姿勢は矛盾している。そのような発想が出てくること自体が信じられず、深い絶望を感じた。本によってどれだけ人間が成長するかということを知っていたら、そのようなことにはならないはずだ。再考を希望しますが、そのような希望を出さなければならないこと自体に、心から失望を感じる(1)

青山高校図書館の業務委託について、校長はもっと早くから阻止に向け動いてほしかった。業務委託では図書館の仕事の一部しか行わず、これまで青山高校図書館が継続し積み重ねてきた図書館活動が打ち切られてしまう。授業との連携や図書委員会活動などが停滞してしまうことが危惧される。生徒の不利益にならないよう、図書館の組織体制づくりが急務である(1)